

2014年問題にチャレンジ!

平成25年2月4日(月)独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構主催の第9回石油・石油ガス備蓄業務改善活動発表会で、操業課チャレンジグループとしてこの1年間に取組んだ、『技術伝承方法の改善による多能化と安全性の向上』について発表しました。技術伝承の大切さとその難しさが、団塊世代の定年退職とともに社会的な課題として注目されていることから、会場の皆さんにも興味を持って聞いてもらうことができたと思います。発表会の

あとに行われた懇親会の席では「直長資格認定制度についてもう少し詳しく知りたい」などの問い合わせもありました。

今回は「自分たちで解決するしかない、待たなしのテーマ」の気持ちのもと、今まで以上に全員参加型の活動ができたと思います。活動概要を以下に紹介します。



1. テーマ選定理由

2014年にピークを迎える操業課員の高齢化対策として、ここ数年、課内の技術伝承に取組んできたが、作成した要領等の活用・共有化が不十分で満足できる成果に繋がっていなかった。このため『技術伝承方法の改善による多能化と安全性の向上』をテーマにあげて<2014年問題>対策として再度チャレンジすることにしました。

2. 4つの取組方針

①主要業務の役割明確化

直長、計器室担当、内・外航荷役責任者、分析担当、工事担当など主要業務の役割を明確にし、更にそれらの資格認定制度をもうけて各自の技術レベルと目指す目標を分かりやすくする。

②多能化による相互バックアップ

操業係、業務係間の相互教育、協力会社の内・外航荷役責任者教育などで各自の多能化を推進して組織力を強化する。

③設備点検の標準化

現場写真を使った点検箇所・点検ルートの見える化、点検要領、設備機器点検表の標準化を通して、設備点検を確実にかつ効率的に実施する。

④緊急時対応の見える化

ガス漏洩、火災発生、買電停止、地震・津波発生などの緊急時にも適切に対応できるように、各種マニュアルを写真、フローチャートを使った分かりやすいものに改善する。

3. 効果と歯止め

取組方針を誰もが納得してから活動をスタートしたので、課員全員の意識が前向きになり、まだ部分的ではあるが、各自の弱点克服、能力向上、並びに操業課業務の均一化が図れ、それらが今後のスムーズな基地運営に繋がっていくと確信しております。直長など各種資格認定のためのチェックリストは改定を重ねてもっともっと分かりやすい制度に上げていきたいと思えます。今後も全員参加による活動を継続して<2014年問題>を乗り越える覚悟であります。

(操業課 江藤浩史)